

2015年 6月 3日

# 2015年3月期 決算説明会

---

日本山村硝子株式会社

代表取締役社長 山村幸治

# 目次

---

- I 2015年3月期 連結業績概要
- II 2016年3月期 連結業績予想
- III 中期経営計画進捗状況
- IV トピックス

# 目次

---

**I 2015年3月期 連結業績概要**

II 2016年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

# 連結損益計算書

単位:百万円

	2013年度	売上高比	2014年度	売上高比	増減額	増減率
売上高	71,887	100.0%	<b>70,161</b>	100.0%	△1,726	△2.4%
売上原価	60,865	84.7%	<b>58,643</b>	83.6%	△2,222	△3.7%
売上総利益	11,022	15.3%	<b>11,518</b>	16.4%	+496	+4.5%
販売費及び一般管理費	11,768	16.4%	<b>12,368</b>	17.6%	+600	+5.1%
営業利益	△746	—	<b>△850</b>	—	△104	—
営業外収益	1,014	1.4%	<b>1,580</b>	2.3%	+566	+55.8%
持分法による投資利益	654		<b>802</b>			
その他	359		<b>777</b>			
営業外費用	857	1.2%	<b>940</b>	1.3%	+83	+9.7%
支払利息	374		<b>482</b>			
その他	483		<b>457</b>			
経常利益	△589	—	<b>△209</b>	—	+380	—
特別利益	3,551	4.9%	<b>9,621</b>	13.7%	+6,070	+170.9%
固定資産売却益	10		<b>8,247</b>			
事業構造改善引当金戻入額	0		<b>1,050</b>			
その他	3,541		<b>323</b>			
特別損失	5,917	8.2%	<b>1,322</b>	1.9%	△4,595	△77.7%
減損損失	2,741		<b>173</b>			
事業構造改善費用	2,859		<b>626</b>			
その他	316		<b>523</b>			
税金等調整前当期純利益	△2,955	—	<b>8,089</b>	11.5%	+11,044	—
当期純利益	△2,660	—	<b>5,419</b>	7.7%	+8,079	—

# セグメント別損益①

単位:百万円

## 【ガラスびん関連事業】

### 《 売上高 》

2013年度	2014年度	(増減額)
45,793	46,904	+1,111

- ◆ 国内ガラスびん出荷量は減少
- ◆ 海外子会社の通期での連結化が寄与  
(前期は6ヶ月間のみ)

### 《 セグメント損益 》

2013年度	2014年度	(増減額)
△696	△1,002	△306

- ◆ 工場閉鎖により固定費は削減
- ◆ 原燃料費や動力費、物流費の上昇に加え、海外子会社の収益改善に遅れ

## 【プラスチック容器関連事業】

### 《 売上高 》

2013年度	2014年度	(増減額)
10,246	8,176	△2,070

- ◆ ペットボトル事業からの撤退
- ◆ 国内外ともに夏場の天候不順による  
キャップ販売不振

### 《 セグメント損益 》

2013年度	2014年度	(増減額)
△425	△386	+39

- ◆ 事業構造改革による人員削減等により、  
コストを削減

# セグメント別損益②

単位:百万円

## 【物流関連事業】

### 《 売上高 》

2013年度	2014年度	(増減額)
12,049	10,918	△1,131

- ◆ 既存営業所の取り扱い物量減、不採算営業所閉鎖

### 《 セグメント損益 》

2013年度	2014年度	(増減額)
95	163	+68

- ◆ 人件費・輸送コストが上昇
- ◆ 不採算営業所閉鎖、取引条件改定等に注力

## 【ニューガラス関連事業】

### 《 売上高 》

2013年度	2014年度	(増減額)
3,799	4,162	+363

- ◆ 光通信用部品の伸長、スマートフォン向け電子部品用粉末ガラス堅調

### 《 セグメント損益 》

2013年度	2014年度	(増減額)
75	215	+140

- ◆ セグメントとして唯一増収増益
- ◆ 増収に加え、生産効率改善・固定費削減に努めた効果

# 連結貸借対照表－資産の部

単位：百万円

	2013年度末	2014年度末	(増減額)
<b>流動資産</b>	<b>41,477</b>	<b>46,152</b>	<b>+4,675</b>
現金及び預金	8,853	14,843	+5,990 大阪工場売却収入
受取手形及び売掛金	19,815	19,947	+132
たな卸資産	10,789	10,075	△714
その他	2,031	1,307	△724
貸倒引当金	△11	△21	△10
<b>固定資産</b>	<b>56,795</b>	<b>61,323</b>	<b>+4,528</b>
有形固定資産	27,270	28,740	+1,470 海外子会社設備更新
無形固定資産	3,814	4,136	+322
投資その他の資産	25,710	28,447	+2,737
投資有価証券	3,826	4,484	+658
関係会社株式	19,401	22,278	+2,877 円安による海外関連 会社評価増
その他	2,525	1,714	△811
貸倒引当金	△43	△29	+14
<b>資産合計</b>	<b>98,273</b>	<b>107,476</b>	<b>+9,203</b>

# 連結貸借対照表－負債・純資産の部

単位：百万円

	2013年度末	2014年度末	(増減額)
<b>流動負債</b>	<b>24,448</b>	<b>25,758</b>	<b>+1,310</b>
支払手形及び買掛金	9,147	8,075	△1,072
短期借入金	9,835	11,426	+1,591
その他	5,465	6,256	+791
<b>固定負債</b>	<b>21,218</b>	<b>20,475</b>	<b>△743</b>
長期借入金	15,165	13,641	△1,524
その他	6,053	6,834	+781
<b>負債合計</b>	<b>45,667</b>	<b>46,234</b>	<b>+567</b>
<b>株主資本</b>	<b>52,243</b>	<b>57,170</b>	<b>+4,927</b>
資本金	14,074	14,074	0
資本剰余金	17,300	17,300	0
利益剰余金	22,093	27,023	+4,930
自己株式	△1,225	△1,227	△2
その他の包括利益累計額	△267	3,540	+3,807
<b>少数株主持分</b>	<b>629</b>	<b>530</b>	<b>△99</b>
<b>純資産合計</b>	<b>52,605</b>	<b>61,242</b>	<b>+8,637</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>98,273</b>	<b>107,476</b>	<b>+9,203</b>

中国子会社による現地借入増

約定返済による減

円安による為替換算調整勘定増



# 目次

---

I 2015年3月期 連結業績概要

**II 2016年3月期 連結業績予想**

III 中期経営計画進捗状況

IV トピックス

# 連結業績予想

億円	予想値	前年差
売上高	710	+8.4
営業利益	7	+15.5
経常利益	12	+14.1
当期純利益	9	△45.2

## 【セグメント別】

- ✓ ガラスびん+25億  
⇒海外子会社 +25億
- ✓ プラスチック△24億  
⇒ペットボトル撤退影響 △26億
- ✓ 物流+5億
- ✓ ニューガラス+2億

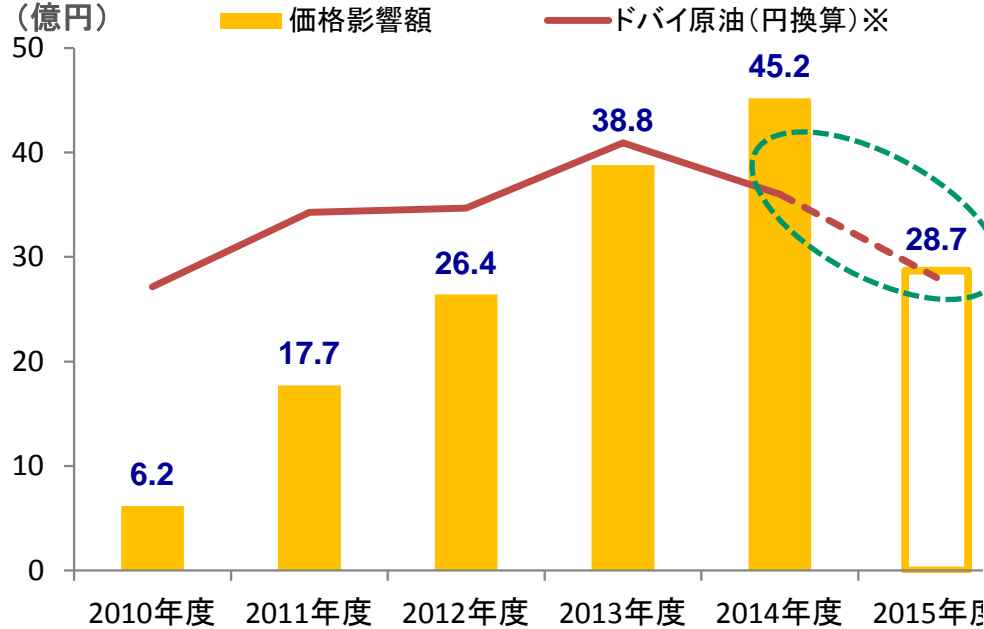
- ✓ ガラスびん+10億  
⇒原燃料・動力費+14億
- ✓ プラスチック+4億  
⇒原料費+4億

### 【前提条件】

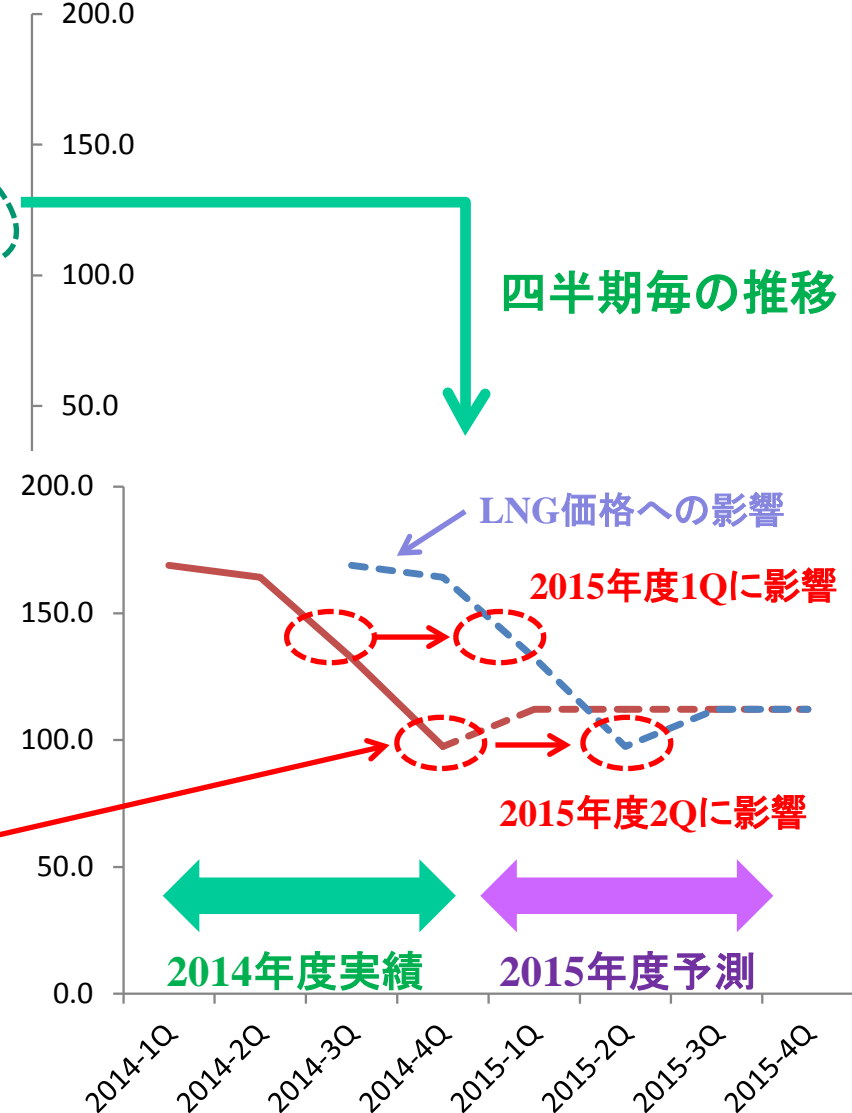
- ✓ 1\$=120円、1RMB=19円、100IDR=0.93円
- ✓ ドバイ原油：\$65 / バレル

# 燃料・動力費の価格変動による影響

価格影響額  
(億円)



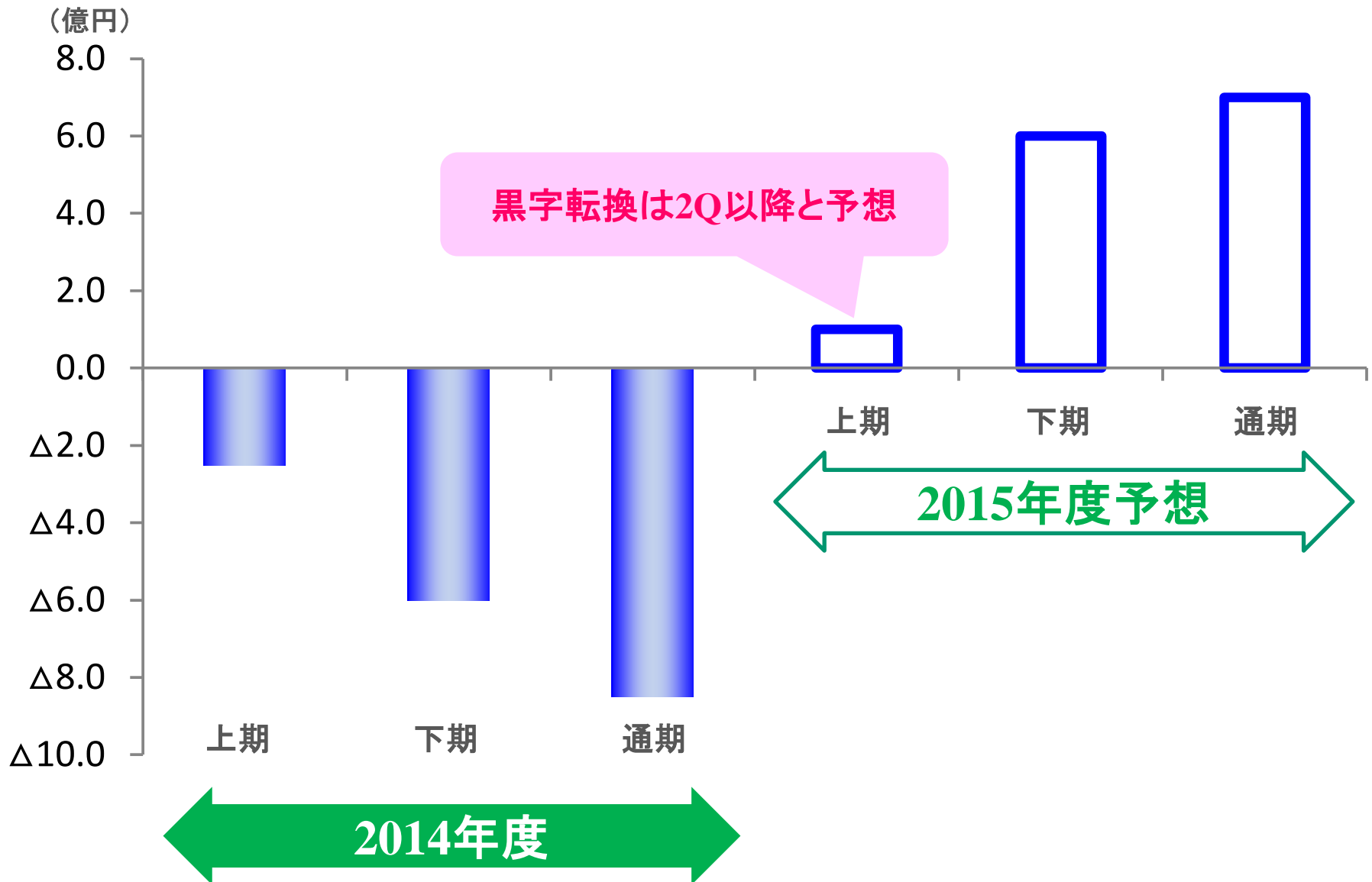
ドバイ原油  
(指数)



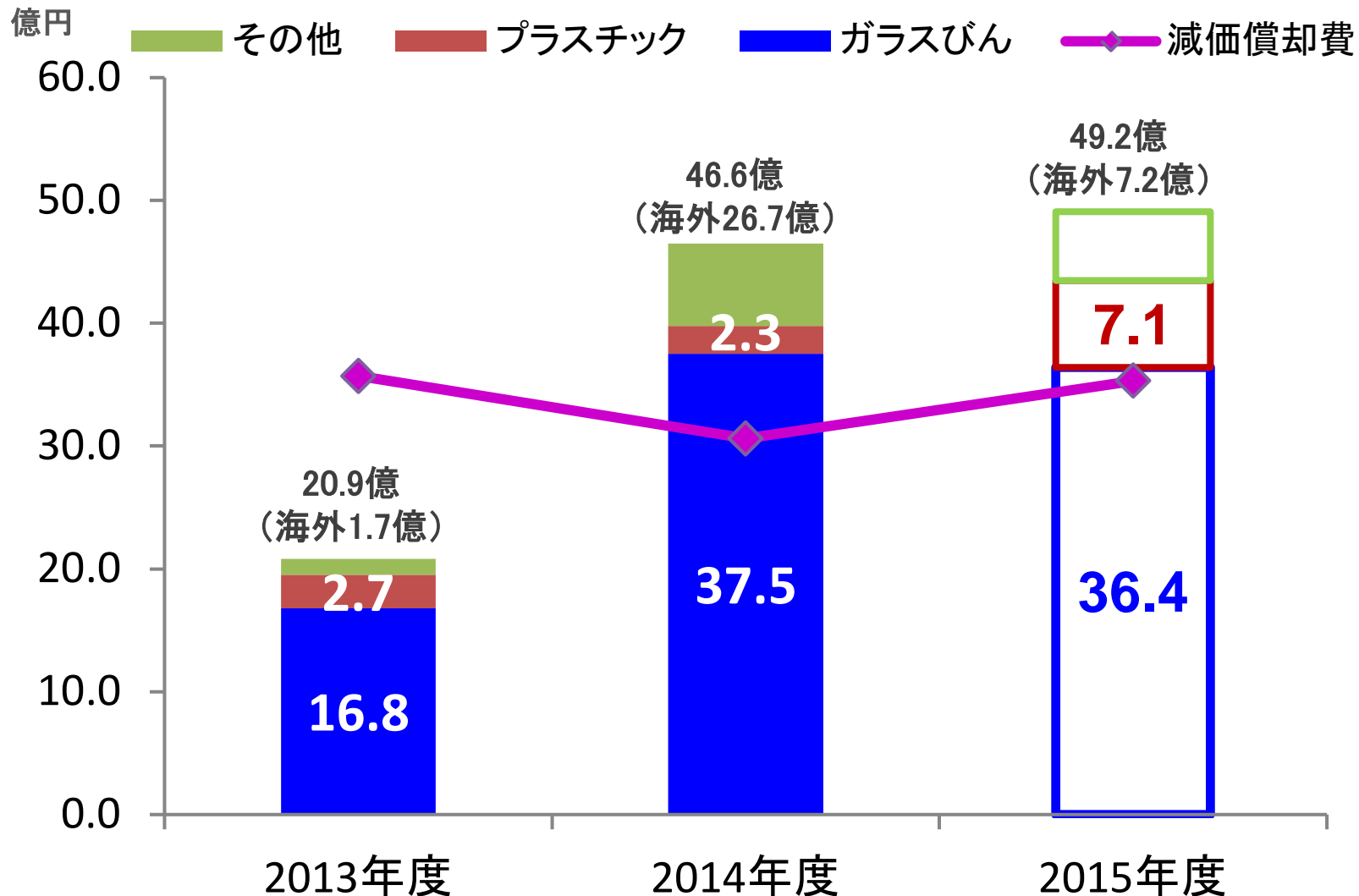
- 燃料・動力の価格変動による影響額を、2009年度との差額で表示
- 「ドバイ原油(円換算)」は、2009年度を100として指数表示

**LNG価格は、ドバイ原油に約6ヶ月遅れで連動するため、価格低下の影響は2015年度2Q以降(2015年度1Qは高止まりした状況)**

# 連結営業利益推移(半期)



# 連結設備投資計画



2014年度に引き続き、2015年度も減価償却費を上回る水準の設備投資を計画

# 配当予想

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
年間配当金	5.5円	5.5円	5.0円	5.0円	<b>5.0円</b>
連結配当性向	59.3%	276.4%	—	9.7%	<b>58.3%</b>



引き続き、安定した株主の皆様への配当を実現するとともに、企業価値を向上すべく、成長戦略実現のための投資を積極的に行う方針

# 目次

---

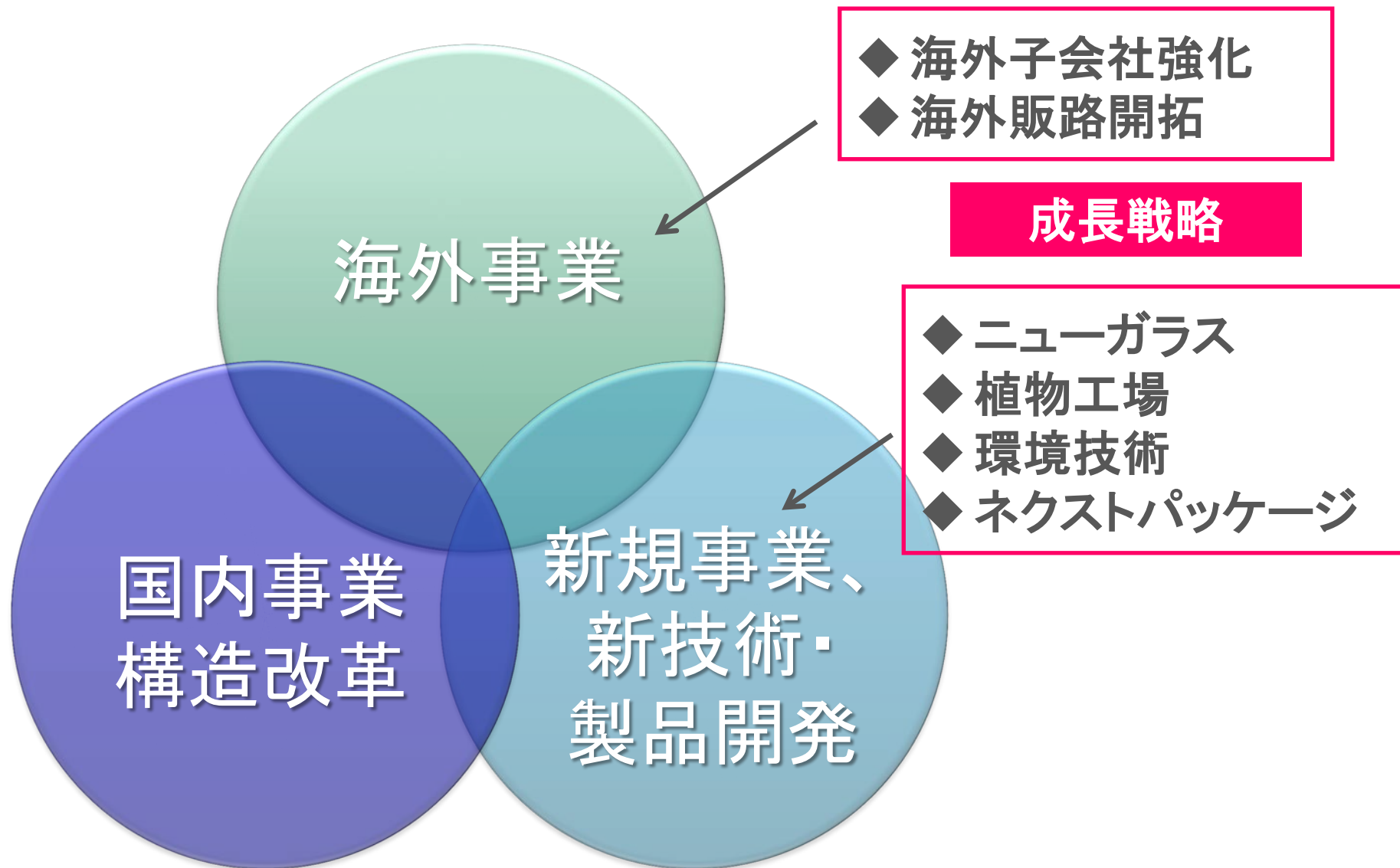
I 2015年3月期 連結業績概要

II 2016年3月期 連結業績予想

**III 中期経営計画進捗状況**

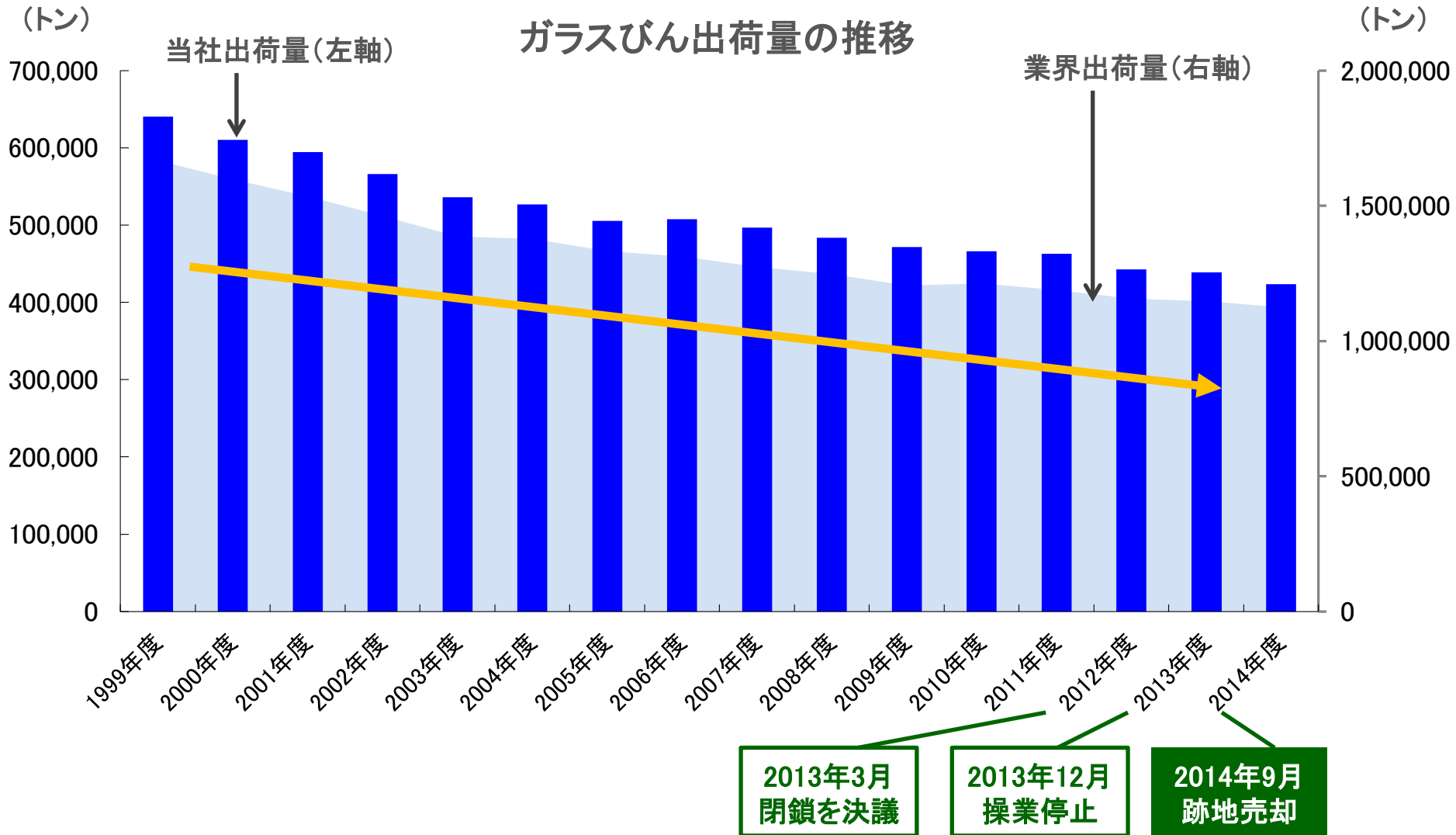
IV トピックス

# 中期経営計画の方向性と施策



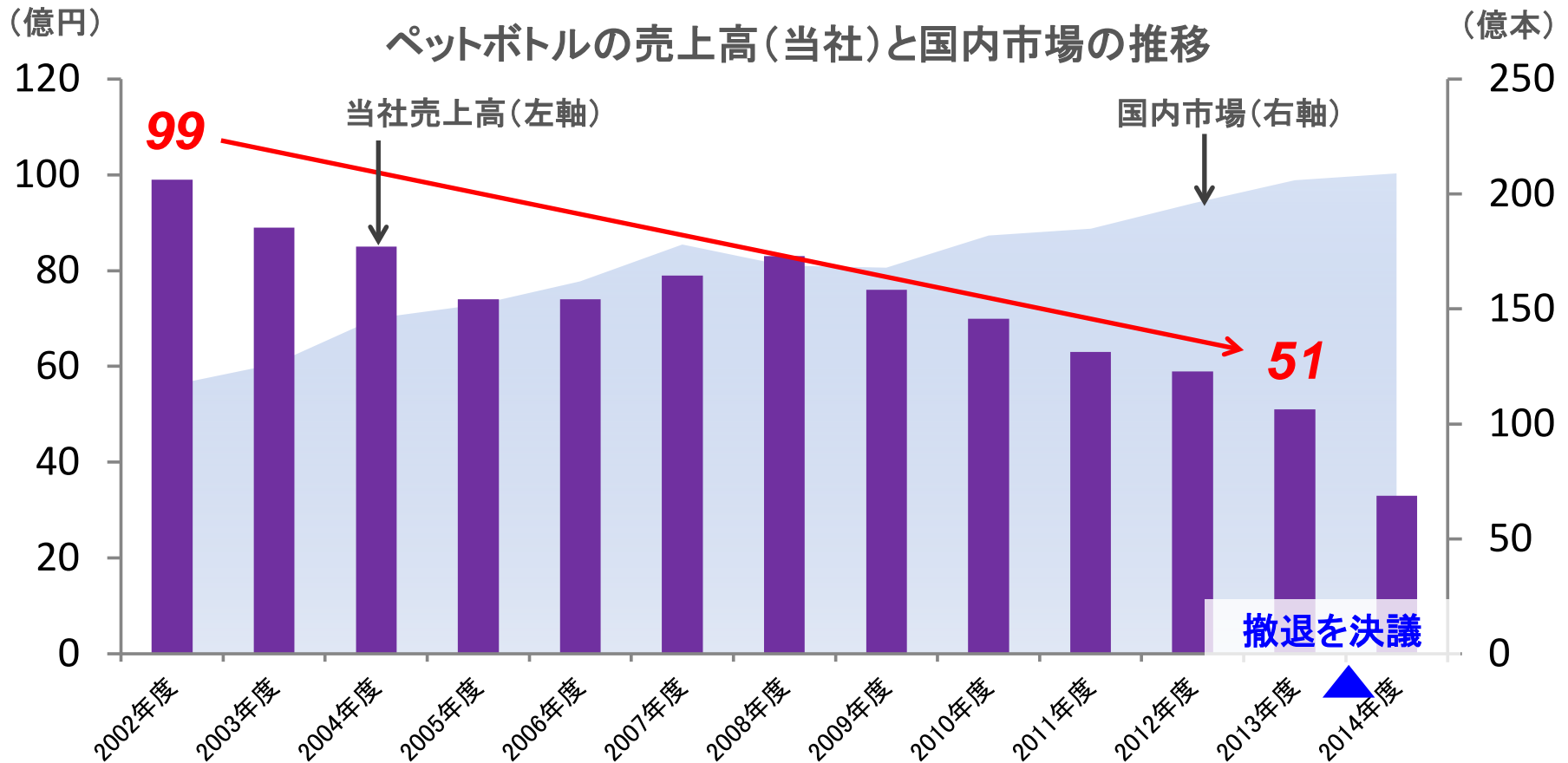


# 国内事業構造改革ーガラスびん大阪工場閉鎖



漸減する出荷量に対して、需給ギャップ解消のため、大阪工場を閉鎖

# 国内事業構造改革－ペットボトル事業撤退



国内市場が伸びる中、得意先による内製化の進展等により、売上はピーク時に比べ半減

今後も事業環境の好転は見込めず、撤退を決議

# 成長戦略－海外事業全体

秦皇島方圓包装玻璃有限公司



中国・米国向けの  
高価格ガラスびん販売強化

東・東南アジア向け販売強化  
(ガラスびん関連、ニューガラス)

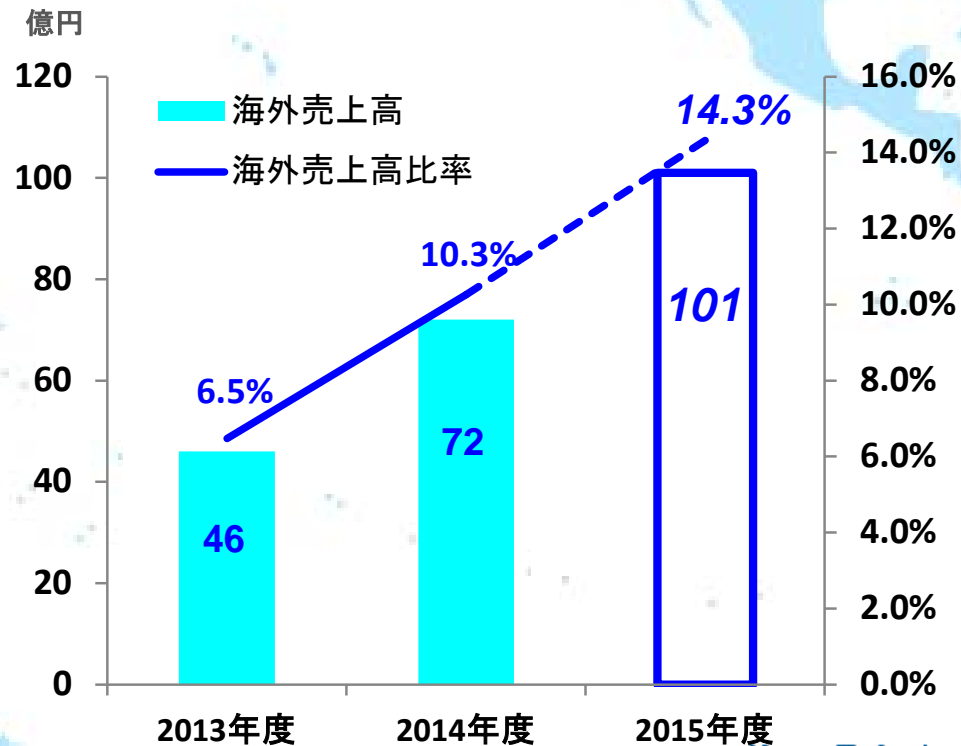
展誠(蘇州)塑料製品有限公司



山村ウタマ・インドプラス



中国・東南アジア域内の  
プラスチックキャップ販売強化



# 成長戦略－YGQ概要

会社名：秦皇島方圓包装玻璃有限公司

Yamamura Glass Qinhuangdao Co., Ltd. “YGQ”

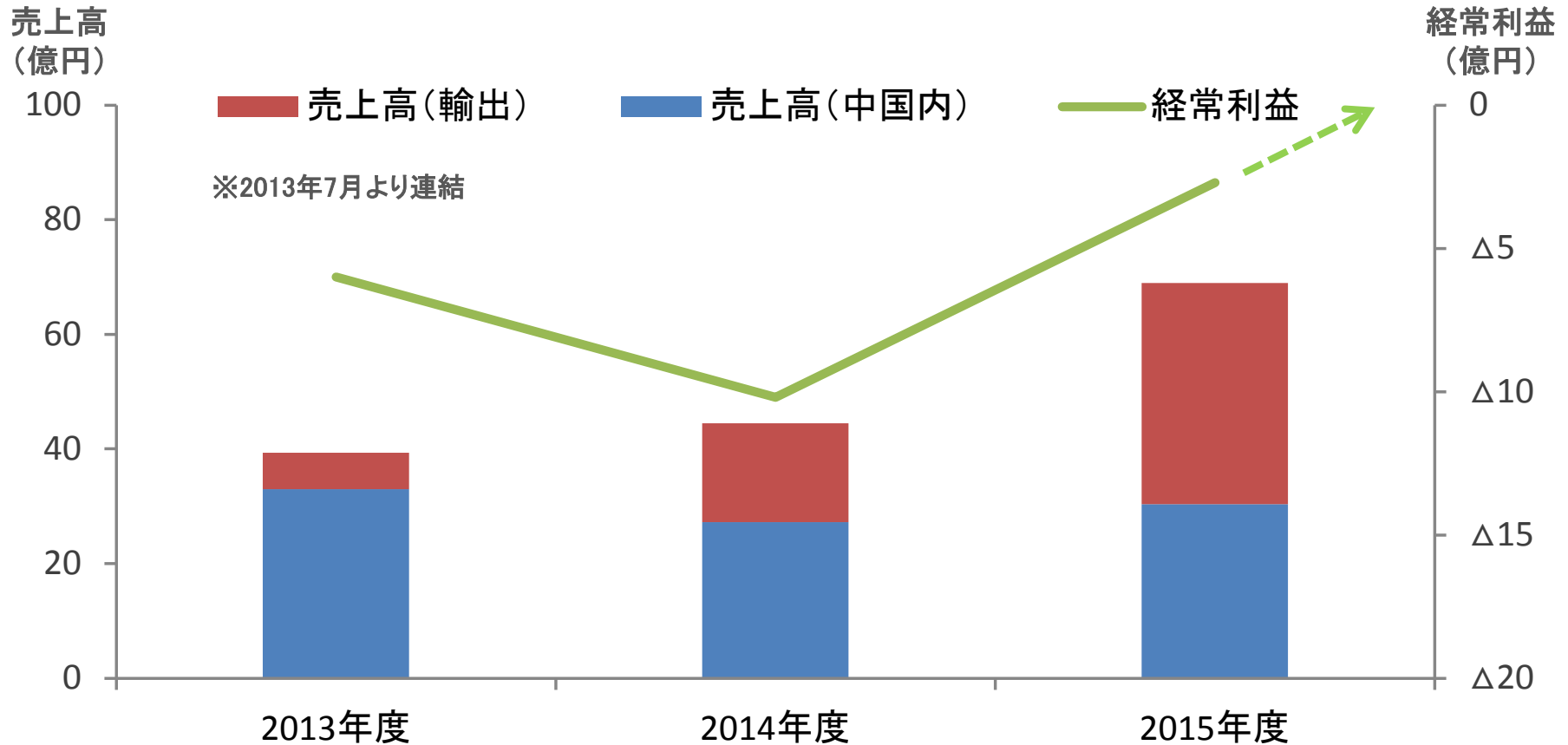
生産能力：25万トン／年（ご参考 当社国内45万トン／年）

出資比率：84.831%

⇒ 2013年7月子会社化



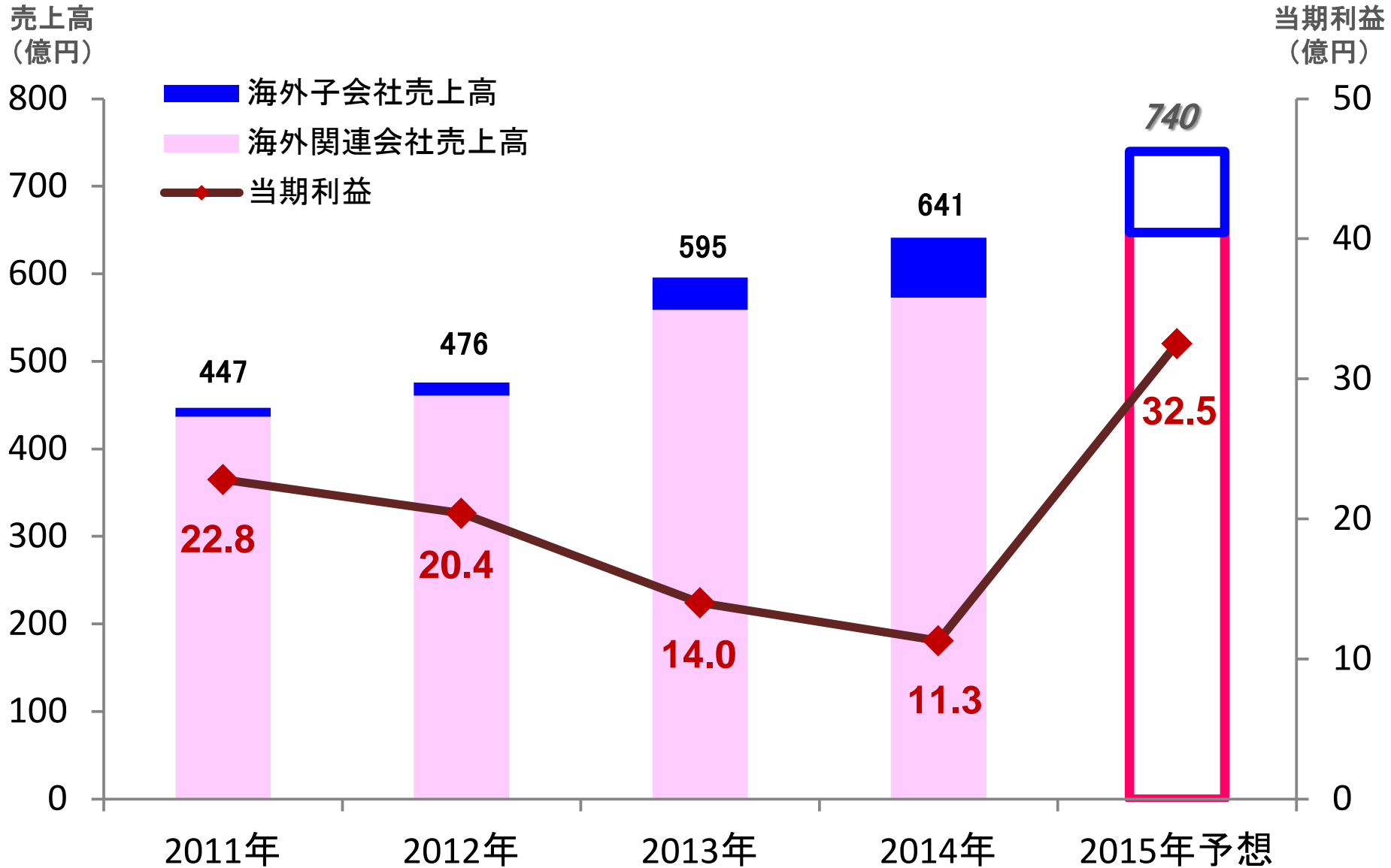
# 成長戦略－YGQ業績推移



- 品質改善により輸出が増加
- 老朽化設備更新、LNG高騰により大きくコストアップ

- 米国向けワインびんを中心に輸出を強化
- 販売@アップ、生産効率アップにより、損益改善を図る

# (ご参考) 海外関係会社業績推移



# 成長戦略－ニューガラス

## 電子分野

－スマートフォン他－

## エネルギー分野

－太陽電池－  
－燃料電池－



## 光分野

－通信インフラ－

## 環境

－用途・素材－



## 自動車分野

－センサー－  
－制御基板－  
－放熱シート－



## 照明分野

－LED－

# 成長戦略－植物工場

## 高付加価値野菜

- ◆ 2014年10月に工場が竣工
- ◆ 12月より事業を開始、大手中食メーカー様向けに出荷を開始
- ◆ 今後既存顧客に加え、新規顧客開拓を進める

## 機能性野菜

- ◆ 食品表示法の改正により導入された「機能性食品表示」制度を踏まえ、高機能性野菜の開発を進める

## 有用植物成分

- ◆ 有用成分を含有する植物から、同成分を抽出、製品化につなげる
- ◆ 有用成分抽出のための最適条件の検討を進めるとともに、有用植物のリサーチを進める



# 成長戦略－環境技術

## NOx低減技術

- 排ガスに含まれるNOxをより低コストで除去

## 低温排熱回収技術

- 工場から排出されるガスから熱を回収し、ボイラーに再利用

## 廃棄物の再利用

- 廃棄物として排出されるセレンを回収し、原料として再利用

1<sup>st</sup> Step

自社活用によるコストダウン

2<sup>nd</sup> Step

国内外への販売による収益獲得

# 成長戦略ーネクストパッケージ

## PGP® (PolyGon Pack)

新形状のフィルム製立体容器で、従来のパウチに比べ、自立性の向上・省資源化を実現し、フィルム使用量を25%削減。  
要素技術の開発はほぼ完了し、生産化に向けたスケールアップと同時に、トイレタリー向け以外の用途についても検討中。

**PGP® シリーズ**



《手触り感の向上》	《省資源、廃棄物の減量化》	《使用感の向上》
<p>既存パウチのようなエッジがなく <b>手触り感向上!!</b></p>   <p>PGP®</p>	<p>既存パウチと比較して フィルム面積が… <b>約25%削減!!</b></p>  <p>コンパクト!</p>	<p><b>手切れ性</b> カットしやすい!</p> <p><b>口開き性</b> 開口部が広く、 自然に注ぎ口が開く</p>   <p><b>注ぎやすい!!</b></p>

Heart&Technology

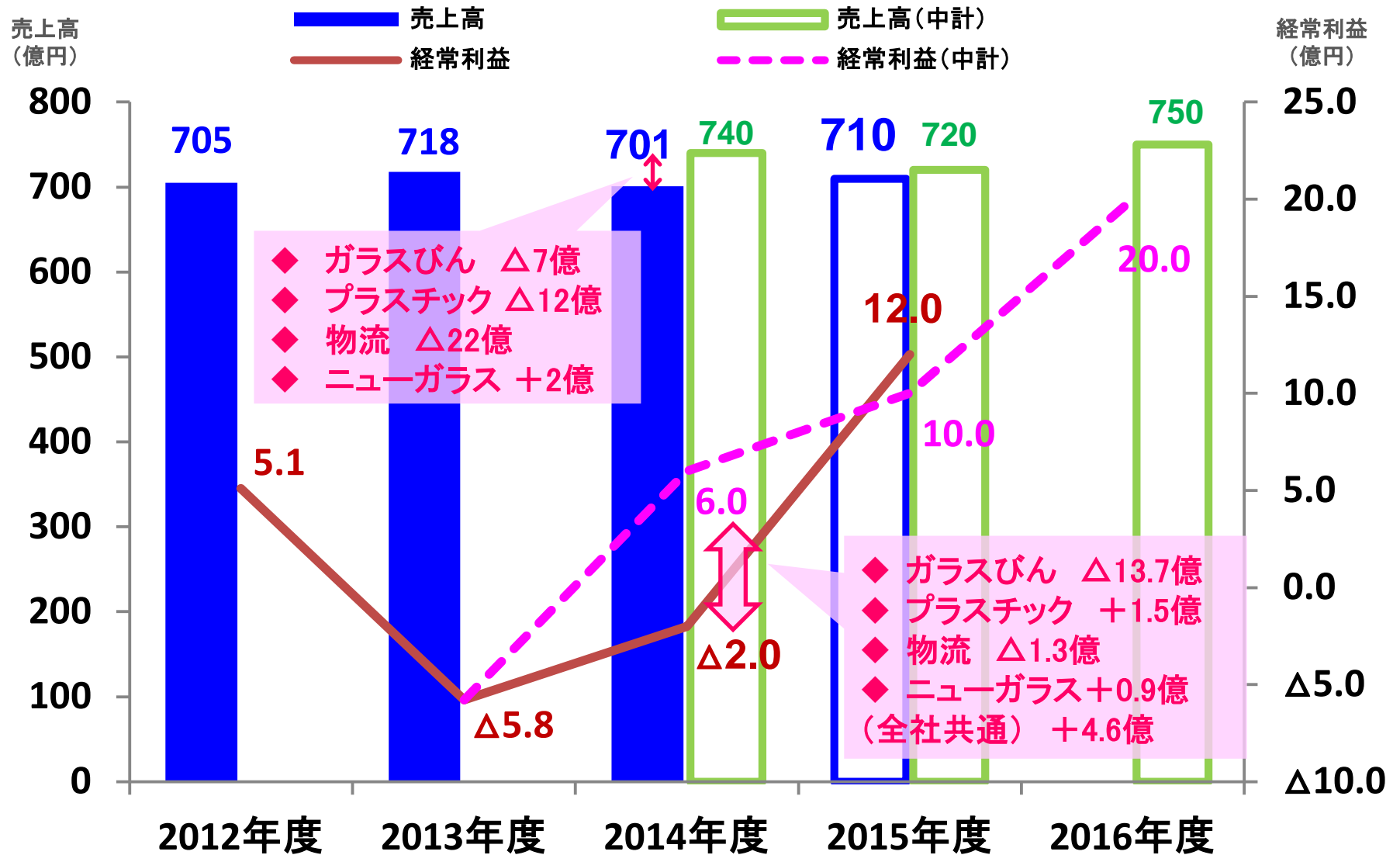
# 成長戦略－新製品開発

## Yamamura Aqua Coat “YAC”

ガラスびんの加飾に独自に開発した水系樹脂を採用することにより、従来に比べ、デザイン性の他、機能性・安全性が向上。高付加価値品のラインアップを充実させ、収益拡大を図る。



# 連結業績推移



※中計:2014年6月5日公表数値

# 目次

---

I 2015年3月期 連結業績概要

II 2016年3月期 連結業績予想

III 中期経営計画進捗状況

**IV トピックス**





世界のYAMAMURAへ

—心と技術を伝えたい—



— 反 転 攻 勢 —

ご清聴

ありがとうございました。

この絵「Vision Art (ビジョンアート)」は、山村グループ経営幹部全員の「世界のYAMAMURAへ」に対する想いをアーティストに描いてもらったものです。山村グループが、創業以来育んできた「心と技術を通じ社会に貢献する」精神を大切に、世界に誇れる「YAMAMURA」ブランドを確立したい、その意志を1枚の絵で表現しています。

皆さんはこの絵から、何を感じますか？

 日本山村硝子株式会社

 日本山村硝子株式会社